

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/1/13作成 (株)新出光

【概況】<米国金融引締め懸念が後退・中国コロナウイルス規制が撤廃経済再開見込み>

●6日、米労働省がこの日朝方に発表した2022年12月の雇用統計によると、景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数は前月から22万3000人増加しました。一方、平均時給は前年同月比4.6%上昇と、伸びは前月から減速しました。これを受け、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げの長期化懸念が後退し、米長期金利が低下。ドルが対主要通貨で下落し、ドル建て商品である原油の割安感が強まったことから、買いが優勢となり、相場は73.77ドルへ小幅続伸しました。

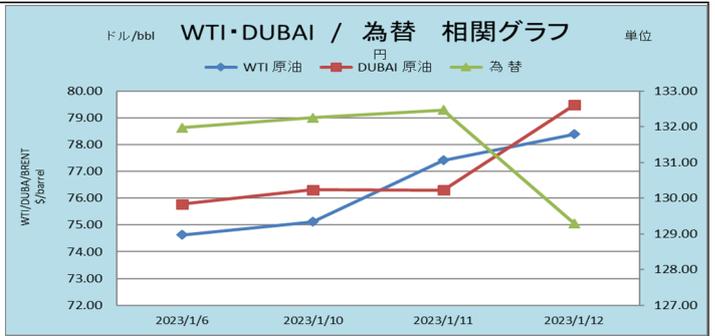
●9日、中国は8日、新型コロナウイルス対策として実施してきた入国時の隔離措置を完全に撤廃。加えて、2023年第2回の原油輸入割当量を発表した結果、昨年10月の第1回分と合わせて前年を20%上回る輸入量になったと報じられたことも、景気回復に前向きな政策の表れと受け止められたもよう。このほか、前週末6日発表の米雇用統計で賃金上昇率が鈍化したため、市場では積極的な金融引き締め継続に対する警戒感が後退。前週に8%超下げた後で買い戻しも入りやすく、相場は74.63ドルへ続伸しました。

●10日、中国、インドでの経済活動を反映して、2024年の世界の液体燃料消費が日量平均1億220万バレルに達するとの予想を示しました。これは22年の9943万バレルを上回る水準で、エネルギー需要拡大への期待が浮上し、原油買いが活発化。ドル安・ユーロ高基調の継続もドル建てで取引される原油の追い風となり、相場は75.12ドルへ続伸しました。

●11日、12日に発表される12月の米消費者物価指数(CPI)伸び率が鈍化するとの観測が広がる中、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ局面が長期化するとの懸念が後退しています。中国での新型コロナウイルス規制が撤廃されたことで同国の経済再開にも期待が広がっていることから、世界的な景気減速に伴うエネルギー需要見通しへの警戒感が薄れ、買いが優勢となり相場は77.41ドルへ続伸しました。

●12日、市場の注目を集めた昨年12月の米消費者物価指数(CPI)は、前年同月比伸び率が6カ月連続で鈍化。インフレがピークを越えたとの見方から、利上げ長期化への警戒感が緩み、相場は一時79ドル台に上昇。中国が厳格な新型コロナウイルス感染対策を転換したことや、欧州連合(EU)がロシア産石油製品輸入について、海上輸送分に限り2月5日から禁止することも買い材料視され相場は78.39ドルへ続伸しました。

1月13日	16:00現在	WTI原油	78.28ドル	為替 1ドル	130.28円
-------	---------	-------	---------	--------	---------



	次回元売変動予測	
	1/19~	元売変動予測
ガソリン	↑	+1.3
灯油	↑	+1.3
軽油	↑	+1.3
A重油	↑	+1.3
L S A	↑	+1.3

【製品卸価格】<原油価格上昇 来週は値上げ改定>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-2.0円」、補助金は、「-15.6円」、都合「-2.8円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの10日時点の小売価格平均は168.2円となっております。

◀1月7日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは、「+0.5円」、激変緩和補助金は「-14.8円」の見込みで、都合「+1.3円」の値上げ改定の予測となっております。11日まで市況をリードしていた月間平均玉を持つ業者の販売が弱まり、変わって市況をリードしているのは元売り週間玉を持つ業者と市況連動玉を持つ業者です。11日の価格改定以降市況は改善されるかと思われましたが、プレイヤーが変わっただけで暖冬の事もありますが、需要の伸びが不調であり相変わらず厳しい市況となっております。本日ドバイ原油が80\$台に上昇しこのまま推移すれば、第4週・第5週とも値上げ改定予測となります。また、1月サウジ調整▲1.9円は現在のところ2月2日からの価格改定時と思われるので、月末近くは逆仮需が予想され各社枠消化を早める展開になると思われます。

【次世代エネルギー】<沼津で水素吸蔵合金量産化『水素化マグネシウム』>

環境技術開発ベンチャーのバイオーク技研(東京都)は、沼津市の沼津事業所で水をかけると水素を取り出せる吸蔵合金「水素化マグネシウム」の製造技術を開発し、量産化に乗り出す。新たに大型設備を導入し、年間生産量を従来の20倍以上に増やし量産化で価格を抑え、今後の次世代エネルギーの需要拡大に備えるとの事。マグネシウムのインゴットを切削・プレスしてタブレット化し、炉内で高圧水素を加えて水素化マグネシウムを生成する。軽石のような外観と手触りで、加水分解すると約22グラムのタブレット1個から20リットルの水素を取り出せ副産物の水酸化マグネシウムは酸素を除去すれば水素化マグネシウムに戻り、二酸化炭素は発生しないとの事。また、水素はガスボンベなどで貯蔵すると爆発の危険性を伴うため、取り扱いの難しさが課題とされていますが、水素化マグネシウムは常温・常圧で大量の水素を安全に持ち運び可能。水素は次世代エネルギーのほか、医療用や生鮮食品の酸化防止などで需要拡大が見込まれるとの事で、上杉堅一営業本部長は「水素活用の動きは急速に活発化するはず。現時点では用途を限定せずに販路開拓に注力したい」との事。

[出典] ① <https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1161022.html>